

刺し網漁業 公表用実技試験問題（専門級）

1. 作業の安全

(1) 安全装具の装着（3分）

ゴム長靴、合羽、作業用救命衣、ヘルメットを装着する。

（使用機材） 各自通常使用中の上記装具

2. 漁具の製作・補修

(1) ロープの結び方（10分）

①かえる又結び ②巻結び ③もやい結び ④バックスプライス

（使用機材） 長さ2 m、中程度の太さのロープ数本

(2) 漁具の製作（30分）

2 mのロープに浮子を固定し、浮子綱を作成する。

次に、この浮子綱に網地を取り付けて刺し網を製作する。

※詳しくは別紙参照。

（使用機材） 浮子2つ、浮子綱、網地、網針、網糸

3. 漁具・漁労機械の操作

(1) ワーピングエンドの操作（10分）

試験官の指示に従いワーピングエンドを起動、停止する。

ロープ20 mを足元にコイルする。

（使用機材） ロープ20 m、ワーピングエンド（縦ローラー又は横ローラー）

4. 漁獲物の処理

(1) 漁獲物の選別（3分）

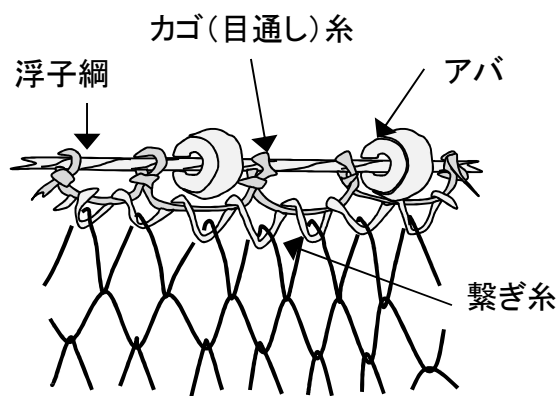
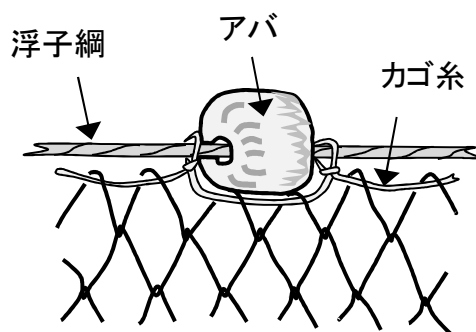
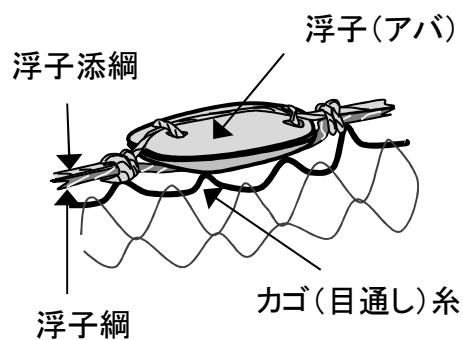
刺し網漁業で獲れる魚4種類の写真40枚を見て、魚種ごとに選別を行う。

（使用機材） 上記漁獲物の写真・・・大日本水産会が用意

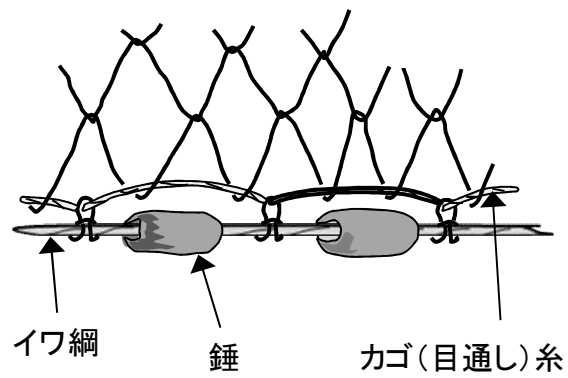
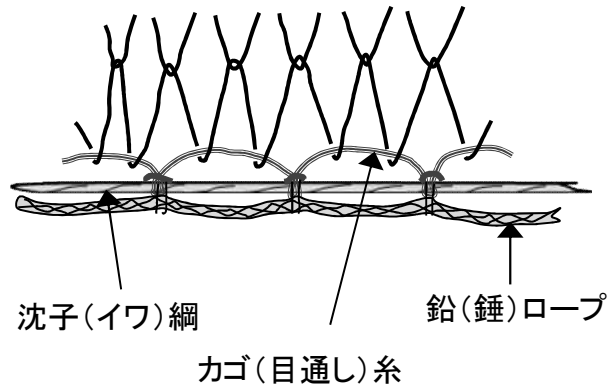
以上

《別紙》

基本的な材料としては、①浮子（アバ）、②浮子綱、③網地、④沈子綱、⑤沈子、⑥繋ぎ糸類各種となる。浮子側は、使う浮子により、添綱が必要になる場合もある。また、沈子綱側は、錘ロープの場合と鉛や陶器の錘を使う場合で多少の仕立て違いが生じる。浮子側の仕立ては、次の通り。どれでも良い。



沈子側の仕立ては次の様なもの。



上記は標準的な仕様。地域や漁業者によりもっと簡単にしたり、複雑にしたりするが、上記が基本なので、これのどれでも良い。